

平成 28 年度

事業報告書

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

平成 29 年 4 月 25 日

一般社団法人 石巻じちれん

一般社団法人 石巻じちれん
会 長 増 田 敬

I はじめに

一般社団法人石巻じちれんは任意団体石巻仮設住宅自治連合推進会事務局を母体として、平成 28 年 1 月 19 日に設立され、今期が法人として初年度の事業に当たった。

今年度は①復興公営住宅入居者ならびに近隣住民を対象とした勉強会の企画・実施および②軽度の要援護者や援護は必要としないが孤立が懸念される住民について、日常的な見守り支援を住民同士の共助により実施できるようシステム構築のための勉強会に焦点を合わせた活動を行ってきた。

①はコミュニティ形成またはその厚みを増す目的を持たせ、広範囲にわたる勉強会を催した。コミュニティの形成初期段階で住民同士の顔合わせ機会が少ないこともあり、好評を博しつつ実施してきたが、とりわけ、本年 3 月に行った「健康麻雀教室」では、受講者から継続を求める声が多く、勉強会参加者を中心としたサークルが結成される見込みである。この特色としては通常開催されているイベントの参加者とは異なり、比較的年配の男性が多く、通常のイベントでは積極的参加が期待できない年齢・性別層に対する訴求効果を意識しつつ、従来の固定観念にとらわれないイベント・勉強会の可能性を探る契機となった。

一方②については、当初仮設住民を対象としたモデル形成からスタートし来年度以降復興公営住宅に活動を広げる予定であったが、仮設住民からは関心は寄せられるものの、いざ実際の活動となると停滞することが多く、困難を極めた。そこで(1)啓蒙対象の重点を仮設から復興公営住宅に変更、(2)他者の見守りを強調することから始めるのではなく、まず自身の高齢化に伴う不安に目を向けてもらうことから始める というように計画を変更し、復興公営住宅地域で認知症の勉強会を 4 回シリーズで開催したところ、参加住民 11 名による自主サークル「つながりサポーター『パル』」が結成された。当サークルは自身の問題としての「認知症予防」を出発点に、現在では他者との支え合いに意識が向かい、結果的に当法人が作製した「つながりカード」をツールに、周辺の高齢者等要援護者の見守り活動を進める方向に動き出した。次年度はそのために必要な勉強会や参加者拡大の活動を重ねていくことを計画している。当法人としては、法人スタッフが主体となった活動ではなく、住民の自主性を引き出し、サークル形成からその活動としての近隣見守りにつなげるという今回の知見を有効な方策と考え、この手法による活動の拡大を図っていきたいと考えている。

以上の通り、少しずつではあるが活動の効果が見え始めているところではあるが、一方で、昨年 6 月に市の被災者自立再建促進プログラムが発表され 132 ヶ所の仮設団地

が 22 の仮設拠点団地に集約されることが決定した。これらの拠点団地では仮設の空洞化や新住民の転入等による住民同士の親和性の低下、イベント等住民同士の顔合わせ機会の減少といったことに起因する仮設住民の孤立が懸念されることから、次年度は上記の活動に加え、仮設団地での住民交流の場の維持に取り組んでいかなければならないと考えている。

II 実施事業の報告

今年度、採択を受けた各助成金ごとに実施事業を記す。

1. 2015 年度トヨタ財団国内助成プログラム（東日本大震災特定課題）

（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

事業名：住民が主役の『(新蛇田地区) のぞみ野まちづくり』応援プロジェクト
ーコミュニティの起案となる住民自治組織形成支援ー

新たに造成された石巻市のぞみ野（新蛇田地区：集合型復興住宅および戸建ての自立再建型住宅の合計 1265 世帯が建設予定）に所在する団地会及び同地区に形成された住民サークルを対象団体として、その活動に対し補助金の支給並びに住民が主体となった活動の企画や、その手続きを通じて初歩的な事業運営スキルの習得等をサポートした。

●第一期（6 月～9 月）

- ・助成金額 上限 20 万円 住民活動に対して助成
- ・企画書を申請（予算見積書を添付）→ 学識経験者 3 名による審査を受けた。

※復興公営住宅より 7 つの団地会が申請し、採択された。

新立野第一復興住宅 A・B・C・D 棟団地会	・ ・ ・ ・	交流会（夏祭り）
同 E 棟団地会	・ ・ ・ ・	新蛇田交流夏祭り
同 F・H 棟団地会	・ ・ ・ ・	新蛇田交流夏祭り
同 G 棟団地会	・ ・ ・ ・	新蛇田交流夏祭り
新立野第二復興住宅 団地会	・ ・ ・ ・	美化衛生と交流会（バーベキュー）
新沼田第一復興住宅 団地会	・ ・ ・ ・	団地内夏祭り
新沼田第二復興住宅 団地会	・ ・ ・ ・	お茶会（プランターに花を植える）

●第二期（10 月～1 月）（3 月まで延長もあった）

- ・助成金額 団地会 上限 10 万円、サークル活動（発足） 上限 5 万円

- ・団地会は、企画書と予算見積書を提出 → 審査を受ける
 - ・サークルは、会則と実施計画（見積書を添付）を提出 → 審査を受ける
- ※5つの団地会と3つのサークル団体から申請が出され、全て採択された
- | | | |
|------------------------|---|------------------|
| 新立野第一復興住宅 A・B・C・D 棟団地会 | ・ | 美化衛生整備・交流会 |
| 同 E 棟団地会 | ・ | 美化衛生（花壇など） |
| 同 F・H 棟団地会 | ・ | 日帰りバス旅行 |
| 新立野第二復興住宅 団地会 | ・ | 秋の味覚交流会・遊び場 |
| 新沼田第二復興住宅 団地会 | ・ | 芋煮会 |
| のぞみ野 民謡を楽しむ会 | ・ | 会発足と練習・お茶会 |
| のぞみ野 音楽サークル「Pちゃん」 | ・ | 会発足と練習・お茶会 |
| 新立野第二復興住宅 菜園会 | ・ | 菜園備品購入・土の手入れ・お茶会 |

本プロジェクトは、住民自身が住民交流に資する活動を主体的に企画運営し、これを通じて新たなコミュニティ、さらにはそのコアとなる住民自治組織の形成契機とすることを目的として実施されたが、以下の諸点から、当初の目的はおおむね達成されたものと思料する。

- ① 企画段階から団地会役員等による主体的参加が必要となり、形式的な役員ではなく、実体を伴ったコミュニティリーダーとなりえる景気となったこと。
- ② 各活動の運営において住民の協働が必要となり、共同体としての意識がそれぞれの構成住民に緩やかに共有されたこと。
- ③ 今回のプロジェクトに基づく活動を契機として、住民同士の話し合い・協議が重要であることに住民自身が気づき、共同募金の補助制度を活用した行事やお茶会の定期的自主開催などが始まったこと。
- ④ 集会所の利活用の重要性が周知され、新蛇田第一集会所運営委員会の運営が活性化しつつあること。当該運営委員会は全団地会の代表者より形成されているため、潜在的に同地区団地会の横断的連絡会的機能を有し、委員会を通じた地区全体の情報共有、さらには協働へ向けた基盤形成の端緒となったものと位置づけられる。

以上の通り、本プロジェクトは同地区のコミュニティ形成の出発点における直接的効果のみならず、特に③、④に述べたとおり今後続く波及効果もみられた。一方、団地会を主たる対象として実施した為、現在入居が進む分譲戸建て住宅住民を巻き込んだコミュニティ形成については限定的な効果しか発揮できなかったものと思われる。この点は今後の課題としつつ、本プロジェクトの経験を踏まえさらなる同地区におけるコミュニティ形成支援活動へつなげていきたい。

2. 東日本大震災現地 NPO 応援基金【特定助成】 『しんきんの絆』復興応援プロジェクト 第3回助成

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

事業名：新渡波西地区「一人一人が主役のまちづくり」支援事業

「ワン・フォー・オール・オール・フォー・ワン～住民一人一人が主役のまちづくり」をスローガンに、住民が交流する機会を入居直前から実施することを通じて、町内会、団地会に所属する役員や地域住民が全員で協働・参加する活動を、住民自らの手で企画・実施し、そのプロセスと成功体験をもって住民の自律的活動を担保できるコミュニティ・自治組織づくりを目指すもので、次の3つの目標を設定した。

●目標①—復興公営住宅周辺既存地区住民・町内会との連携・信頼関係づくり

- ・4/16、17 石巻市主催の入居前見学会・説明会に出席。住民への挨拶
- ・5/26～ 当該復興住宅への入居開始に伴い、戸別訪問などによる情報収集
- ・6/8～ 既存町内会・千刈田町内会区長と面談する一方、団地会の班長会には5回出席し、町内会の役員会の席で「入居記念 夏祭り」の開催予定とその趣旨を説明した
- ・8/21 「入居記念 夏祭り」開催
主催：市営新渡波西復興住宅 団地会
共催：石巻市渡波千刈田区 町内会、(一社)石巻じちれん、
後援：石巻地元工務店協同組合、大和ハウス工業(株)
パナホーム(株)、石巻信用金庫
会場：渡波西公園
来賓に亀山石巻市長を迎え、参加住民250名、地元の獅子舞と渡波中学校吹奏楽部の演奏や餅まきなどの催し物を添えて、盛会裏に終えた
- ・12/18 カラオケ温泉バスツアー実施
場所：松島・新富亭
参加：住民18名
- ・H29/3/4 「千刈田・さくら町地域交流会」開催
主催：石巻市渡波千刈田区 町内会
共催：一般社団法人 石巻じちれん
会場：渡波公民館
来賓に亀山石巻市長(菅原副市長代理出席)を迎え、歌謡ショーと

漫才公演を楽しみながら、町内会住民有志による芋煮が振舞われた。
72名の住民が参加し、二分の一周年記念と位置づけたこの交流会を満喫し、相互交流を図った

●目標②ー住民の安全・安心・快適な暮らしを支援するための行政・社協・包括ケアセンター・NPO等、関係アクターとの連携体制づくり

- ・当該エリアを担当する社協 CSC をキーマンとして、NPO 等の協力を受けながら町内会住民のサークルが出来、集会所を活用してお茶会をしている。
平成 26 年 9 月から 2 年半に亘って実施している「味の素 (株) 料理教室」を紹介、2 回開催した。また、復興住宅住民の有志によるカラオケ交流会も好評で 1/19 の第 1 回目を皮切りに、毎月一回ずつ実施。4 月で 4 回目を数える定期開催となり、住民同士のコミュニティ形成に一役をかつている。

●目標③ー住民情報のデータベース化を図り、今後の地域コミュニティを担う人材づくりと震災後のまちづくりのモデルケースとして後世に伝承する

- ・交流行事に参加する住民は限られており、データベースの情報量に限度があったが、大きなイベントを 2 回実施したおかげで、1 年間といった短期間の割には情報を集められた方だと考えている。

この事業は既存町内会の組織に新しい復興住宅住民が編入されるというケースであった。既存町内会 230 世帯に新規住民 130 世帯が編入するといった数字的にはあまり無理のない組み合わせではあったが、既存住民と仮設住宅から移住してきた新規住民との間で、コミュニティに対する感覚に相当な温度差があることに気付かされた。

当団体の活動も当初はギクシャクしたところが感じられ、担当者も両住民の間に立つて苦慮するところが多かった。

しかし、集会所の有効に努め、大きなイベントを開催する事により両者の交流に変化が見られるようになった。前述の料理教室やカラオケ交流会などにその兆候が現れ始めている。

3. 平成 28 年度 石巻市地域づくりコーディネート事業

(平成 28 年 5 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

事業名：新蛇田復興公営住宅地域におけるコミュニティ形成コーディネート事業

●復興公営住宅入居者ならびに近隣住民を対象とした勉強会の企画・実施

・6/25（土）14：00～15：30

園芸勉強会

テーマ 「土作りと野菜の手入れ」

会場：市営新蛇田第一集会所

講師：グリーンサム店長 本田 和彦氏

参加住民：23名

・7/19（火）10：00～11：30

テーマ： 「食中毒予防と対策について」

会場：市営新蛇田第一集会所

講師：石巻保健所・食品衛生班 技師 阿部 隆樹氏

参加：住民 26名

・8/27（土）09：00～12：00

テーマ： 「応急手当普及講習 普通救命Ⅰ」

会場：市営新蛇田第一集会所

講師：石巻西消防署 救命士2名

参加：住民 13名

（終了後、受講者全員に「普通救命講習Ⅰ 修了証」を発給された）

・9/17（土）13：00～15：30

テーマ： 「サークル・ボランティア活動のヒント」

会場：市営新蛇田第一集会所

講師：内田 俊介（旅する映画監督）

参加：住民 17名

・11/20（日）13：00～16：00

テーマ： 「カビとダニの予防法」

会場：市営新蛇田第一集会所

講師：国立医薬品食品衛生研究所 理学博士 渡辺 麻衣子氏

参加：住民 34名

・12/9（金）10：30～12：00

テーマ： 「健口美体操 講習会」

会場：市営新蛇田第一集会所

講師：（公財）ライオン歯科衛生研究所 歯科衛生士 亀田 麻美氏

参加：住民 23名

・12/18（日）10：30～12：00

テーマ： 「いきいき美容教室」

会場：市営新蛇田第一集会所

講 師： 資生堂ジャパン株式会社 ビューティーセラピスト 三浦 美樹氏
参 加： 住民 21名

・ 1/15 (日) 10:00~12:00

テーマ： 「動物のいる素敵な、まちづくり」

会 場： 市営新蛇田第一集会所

講 師： 仙台市、菅原動物病院院長 獣医師 菅原 康雄医師

参 加： 住民 18名

・ 2/15 (水) 10:00~12:00

テーマ： 「冬お健康料理教室」

会 場： 市営新蛇田第一集会所

講 師： 味の素株式会社 CSR部 マネージャー 山田 幹夫氏

参 加： 住民 22名

・ 3/6 (月) 10:00~12:00

テーマ： 「健康麻雀教室」

会 場： 市営新蛇田第一集会所

講 師： 日和山健康麻雀教室 代表 寶 鉄雄氏

参 加： 住民 21名

●住民同士の交流起点としての集会所利用促進サポート活動

○『ご当地版ラジオ体操』をツールとした朝の健康体操サークルの実施・推進：

平日、毎朝8時30分から市営新蛇田第一集会所の中庭で「ご当地版ラジオ体操」のCDを流し、復興住宅の住民有志とラジオ体操を実施している。

雨や風の強いような天候不良の場合でも、集会所の玄関ホールを使い平成27年6月8日から一日も休むことなく続いており、毎朝、談笑を交わしながら和気あいあいとしたラジオ体操タイムを展開している。

参加者は16~20名で、ほぼ固定化しつつあるが、彼らは各種イベントの良き理解者であり協力者でもある。(催事の口伝えによる広報活動や、料理その他に積極的に参加してくれる。)

小学校の夏休み中には、小学生の兄妹2名も決まって参加している。

○地域住民を主体としたサークル活動支援の実施：

住民を中心としたサークルの結成と活動を支援してきた結果、少しずつではあるが形になりつつある。

①「えてがみの会」

新立野第一復興住宅の住民一人を中心に発足

第1回目を3/25に実施、以降毎月一回(第三木曜日)開催中。

地元紙で紹介されてから参加者が増え、10名以上になった。

②「のぞみ野民謡を楽しむ会」

6/14 にテスト的に開催

8/13 の「新蛇田地区盆踊り大会」で民謡を披露し、踊り手はそれに合わせて踊りを楽しんだ。

当初は5名で始まったが、今は20数名に膨れ上がっており、人気の高さを物語っている。

毎月二回（第一・第二火曜日午前）開催。

③のぞみ野音楽サークル「Pちゃん」

10/1 設立 会員5名

毎月二回（第二・第四火曜日午後）開催。

④「のぞみ野ボランティアクラブ」

12/4 設立 第1回ミーティング 会員（高校生）3名

12/18 勉強会会場の手伝い

12/25 第2回ミーティング（今後のクラブ運営について）

H29年2/4 第3回ミーティング（お絵かき教室開催の企画打合せ）

2/25 第4回ミーティング

3/3 第5回ミーティング

3/25 「お絵かき教室」開催

主催 のぞみ野ボランティアクラブ、

参加 19名（対象 小学生～中学生）

⑤「あそぼう会」

まだサークルにはなっていないが、3/6（月）開催した勉強会「健康麻雀教室」に参加した住民の有志が企画し、3/31（金）17：00～20：00実施した。

参加者17名で麻雀、将棋を楽しみながら交流を図った。

（従来のイベントには参加していなかった顔ぶれも見受けられた。）

参加女性からの希望もあり、次回は日中開に開催することになり、

4/21（金）13：00～17：00で予定している。

- ・年10回の勉強会を通じて、住民間交流が促進された。参加者は延べ218名。
- ・住民有志が核となったサークルの結成を支援し、その継続的な活動をサポートしてきた。

その結果、「のぞみ野民謡を楽しむ会」「のぞみ野音楽サークルPちゃん」「のぞみ野ボランティアクラブ」「つながりサポーターパル」等が結成され、定期的に活動している中、各サークルとも参加メンバーが増える傾向にある。

- ・集会所利用促進に関して、住民へのヒアリングにより、子育て支援、若年層就労支援、蛇田地域包括支援センター等との連携が可能になり、分譲戸建て住民と復興住宅住民の交流が進んだ。
- ・事務所立地を活かし、活動の中で、キーパーソンとの信頼関係を築き、協力していただける住民と連携、新蛇田地区盆踊り大会の開催において、戸建て住民のキーパーソンとの連携も実現し、一気に住民間交流が加速した。

4. 宮城県 NPO 等の絆力を活かした震災復興支援事業

(平成 28 年 6 月 16 日～平成 29 年 3 月 31 日)

事業名：被災コミュニティの維持・形成と共助的見守り啓蒙・推進事業

I. 仮設団地自治会・世話人会の維持および外部アクターとのネットワーク維持 支援：

- ・仮設自治会役員等意見交換会：
仮設団地自治組織役員が集まる支部会を定期的で開催・・・11 回実施
- ・いしのまき自治連だより：
Vol. 31 から 34 まで 4 回発行。
ラミネートをかけ、仮設団地の掲示板への掲示や集会所へ配布した
- ・石巻仮設住宅自治連合推進会役員意見交換会：
第 12 回から 14 回まで 3 回開催、その都度、前述の支部会で提起された事案等を取り上げ、外部アクターなどを交えて検討を行っている。
- ・いしのまき支援連絡会・幹事会：
石巻社協が事務局を務め、毎月第 2 木曜日 17：30 より定期開催、当法人も幹事団体の一員として参画、行政や NPO 団体等との情報共有を行っている。10 回出席

●直接的効果

- ・仮設自治会等意見交換会の定期開催等により、仮設コミュニティの状況把握とキーパーソンによる情報共有が図られ、仮設集約と最終的な解消へ向けての課題が住民の孤立緩和である点が最大の課題であることが関係者間に共有・明確化した。

・仮設の空洞化が進む中、従来の自治会・世話人会役員が退去し、住民組織の維持は難しくなっているが、従来の役員間のネットワークを生かし、新たな世話役的存在の掘り起こしにつながっている。

●波及効果

・仮設解消までの住民の孤立緩和を最大の課題として、これへの対応策(集約先17団地でのお茶会の週1回定期開催)が具体化しつつある。また、当団体の他、仮設自治会役員OBやいしのまき支援連絡会参加団体からも協力の申し出を受けている。

II. 復興公営住宅団地会(主に新蛇田地区)のネットワーク形成支援:

・新蛇田地区の7つの団地会役員および戸建てを含む住民により構成されている新蛇田第一集会所・運営委員会の事務局を担っている。

新蛇田地区住民の横断的な連携を取れる組織として、自治会形成の途上にある同地区では有用な存在となっている。

7/3(日)開催の総会のあと、運営委員会を4回開催し、各団地会の情報共有の場を提供した。

●直接的効果

・運営委員会を全団地会役員及び各団地所属住民代表により構成することにより、本来の住民組織形成まで暫定的ではあるが、住民連絡会機能を有する組織が形成されることとなった。

●波及効果

・委員会を開催することにより、各団地会役員や住民同士が顔なじみとなり、日常のインフォーマルな情報共有が図られるとともに、彼らを中心とした団地会合同によるイベント(盆踊り大会等:本助成外で実施)の開催等、地区全体の一体感形成に効果があった。

・本年度は実際の集会所運営に関して当会が協力しつつ行なったが、運営委員会委員それぞれが参画意識を持ち、住民による自律的運営への機運が高まりつつある。

III. 被災コミュニティのネットワークを活かした住民相互の共助的見守り支援システムの形成:

◆見守り支援システム推進者養成講座:

・『つながりサポーター養成講座』10回シリーズで開催

講師:社会福祉士 末永亜衣、

受講者:事務局スタッフ7名ほか住民1~2名

1回目:7/4(月)09:00~11:30 テーマ「コミュニケーションとは」

2回目:7/7(木)09:00~11:30 テーマ「傾聴」

3回目:7/11(月)09:00~11:00 テーマ「受容と共感・前編」

4回目:7/14(木)09:00~11:00 テーマ「地域共生・共同」

- 5回目：7/21（木）09：00～11：20 テーマ「連携の技術」
- 6回目：7/25（月）09：00～12：00 テーマ「連携の技術2」
- 7回目：7/28（木）09：00～12：00 テーマ「連携の技術3」
- 8回目：8/1（月）09：00～11：00 テーマ「各自の認識の発表」
- 9回目：8/4（木）09：00～11：30 テーマ「孤立を無くす」
- 10回目：8/8（月）09：00～12：00 テーマ「じちれんの潜在的な能力」

- ・「認知症と向き合う＝地域編＝」

10/16（日）10：00～12：00

講師：石巻市包括ケアセンター所長 長 純一医師

参加：32名

- ・「居住環境の問題解決と生活復興」

10/23（日）13：30～15：30

講師：大阪市立大学 学長補佐 宮野道雄 工学博士

参加：36名

- ・「認知症と向き合う＝家族編＝」

11/13（日）10：00～12：00

講師：石巻市包括ケアセンター保健師・高橋恵子氏、熊谷悦子氏

参加：21名

- ・「認知症と向き合う＝個人編＝」

12/11（日）10：00～12：00

講師：東北医科薬科大学 古川 勝敏教授

参加：36名

- ・「認知症サポーター養成講座」開催

1/27（金）10：00～12：00

場所：市営新蛇田第一集会所

講師：石巻市蛇田地域包括支援センター職員7名

参加者：22名

- ・第1回「つながりサポーターパル」発足

2/3（金）10：00～12：00

場所：市営新蛇田第一集会所

出席：10名

1/27開催の「認知症サポーター養成講座」に参加した22名に声がけし、有志が集まり、今後の活動について打合せた。

- ・第2回「つながりサポーターパル」開催

2/10（金）10：00～12：00 出席：6名+新メンバー1名

- ・第3回「つながりサポーターパル」開催
2/24（金）10：00～12：00 出席：6名 事務局2名、社協1名
- ・第4回「つながりサポーターパル」開催
3/10（金）10：00～12：00 出席：8名、事務局1名
- ・「傾聴セミナー」開催
3/17（金）10：00～12：00
場所：市営新蛇田第二集会所
講師：認定NPO法人 Switch 代表理事 高橋 由佳氏
参加者：6名（「パル」のメンバー）、事務局1名
- ・「認知症の概略と地域での互助活動について」開催
3/29（水）10：00～12：20
場所：市営新蛇田第一集会所
講師：石巻市包括ケアセンター 所長 長純一 医師
参加者：14名（「パル」のメンバーを中心とする）、事務局2名

●直接的効果

- ・復興公営住宅住民によるサークルである「つながりサポーター『パル』」が発足、住民自身がコミュニティの課題として見守りの必要性を認識し、自律的に共助的環境形成に立ち上がった。
- ・当会の組織内部ではなく、住民自身による自主的サークルとして住民同士の見守りサポーター団体が形成できたことで、当会は同様のサークル形成のシーズづくりと運営サポートを行い、活動主体は住民自身のサークルというスタイルが形成できた。

●波及効果

- ・上記のスタイルをモデルとし、サークル形成と運営のノウハウを生かし、仮設住宅および復興公営住宅への波及が見込まれる。

以 上